

歌って踊る



先週水曜日には全校音楽がありました。今月の歌「ゆかいに歩けば」を、全校で歌ったり踊ったりする楽しいひと時。「ゆかいに歩けば」は、もうすっかりお馴染みの（ちょっと古い）曲ですが、時代を超えて子どもたちの心を弾ませるようです。

AメロとBメロとに分けて、異なる振り付けをしました。はじめはボックスステップや足踏みなどの軽快なダンス。その後は左右に体を揺らす伸びやかな振り付け。曲想に合わせて体の動きも変えています。加藤先生のお手本に合わせて低学年の児童たちが元気に踊りだすと、その波がだんだんと全校に広がっていきます。はじめは恥ずかしそうにしていた高学年の児童たちも、だんだん体（と心）がほぐれてきたようでした。

私も負けじと子どもたちと一緒に踊りました。昔取った杵柄、ダンスは結構得意です。プレイクダンスの動きを交えて大げさに踊っていると、ふと6年生の女子と目が合いました。「教頭先生、いい年してなにやっているの？笑」と思ったかどうか分かりませんが、お互いに笑顔になったのは間違いありません。

歌やダンスには不思議な力があります。自ずと人を引き寄せる魅力。自ずと人を巻き込む魅力。自ずと元気になる魅力。何千年も前の人類が描いた洞窟の絵の中には、歌って踊っている様子が描かれているといひます。芸能界に目を向ければ、ダンスボーカルグループが大活躍。形は様々でも、歌って踊ることは人の心の奥にあるなにかを突き動かすのかもしれない。